

(様式1)

校種	小・中 どちらかに○	学校番号	17	学校名	宇都宮市立緑が丘小学校
----	---------------	------	----	-----	-------------

平成30年度 学校経営計画

1 教育目標

- (1) 基本目標
実践を通して、自ら学び続ける力を身につけながら、心豊かにたくましく生きていく児童の育成
- (2) 具体目標 (具体的な児童生徒像など)

【合言葉】 みどりの子 明るく やさしく 根気よく

自分をつくり自立する子 (生きる力)

- ・ 友達をつくり力を合わせる子 (社会性)
- ・ 豊かな心をつくる子 (感受性・主体性)
- ・ 丈夫な体をつくる子 (意欲・気力・体力)
- ・ 確かな考えをつくる子 (課題解決力)

・・・明るく

・・・やさしく

・・・根気よく

2 学校経営の理念

テーマ 「地域社会に根ざしたこれからの学校づくり ～家庭・地域社会との相互連携による、生きる力をはぐくむ教育の推進～」

目標や課題の明確化・重点化・共有化を図り、一貫性のある教育活動を展開して、生きる力をはぐくむ教育を推進するとともに、適材適所の役割分担と課題解決への取り組み体制の工夫により、校内体制の活性化、強化を図り、教育目標の確実な具現化に努める。また、地域協議会や地域学校園を中心として家庭や地域社会との相互連携による教育をさらに推進して、取り組みの効果を高めながら、児童の教育を通して地域社会にも貢献する。

3 学校経営の方針

- (1) 知・徳・体のバランスを大切に、確かな学力、豊かな人間性、健やかな身体など、「生きる力」をはぐくむ教育を推進する。
- (2) 組織体制の強化を図り、多様な教育的ニーズや事故等に対して、組織的な対応に努める。
- (3) グローバル社会や情報社会に対応するための資質・能力の基礎を培う教育の推進に努める。
- (4) 開かれた学校づくりを推進するとともに、地域の教育力を生かした教育活動の充実を図る。
- (5) 外部人材の有効的な活用や勤務時間の管理方法等の改善を図ることにより、教職員の働き方の改善に努める。

[陽南地域学校園教育ビジョン]

地域に根ざした豊かな心を育む小中一貫教育 ～子どもの自主的な活動を通して～

4 今年度の重点目標 (「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○)

- (1) 学校運営
 - 「明るいあいさつ・楽しい学校」をスローガンに家庭・地域と連携し、人と関わる楽しさや学ぶ楽しさ等を実感できる学校づくりに教職員一人一人が主体的に取り組む。
 - ・ 魅力ある学校づくり地域協議会との連携をより一層強化し、学校支援ボランティアの充実を図る。
 - ・ 出退勤の管理方法の工夫・改善と学校リフレッシュデーの設定と、確実な実施に努める。
- (2) 学習指導
 - 「学び合い、ともに育つ」～子どもが主体的に学ぶ授業を目指して～
 - ・ 習熟度別学習やグループ学習等を通して、基礎・基本の確実な定着を図る。
 - 自分の考えを明確に示し、話し合いなどの集団の学びを通して思考を高める。
 - ・ 主体的に学ぶための学級集団の育成のため、学業指導の充実を図る。
- (3) 児童生徒指導
 - 集団生活における規範意識の育成と思いやりの心をもって協力できる児童の育成に努める。
 - ・ 児童の特性やよさを認め励まし、自己肯定感や有用感を高めるとともに、たくましさを育成する。
 - ・ いじめゼロ集会実施方法のより一層の工夫とおはなしタイムの充実を図る。
- (4) 健康 (体力・保健・食・安全)
 - ・ より実効性のある「引き渡し訓練」実施のための計画・立案及び保護者への啓発及び依頼に努める。
 - ・ 「うつのみや元気っこ健康体力チェック」の結果分析を生かし、教科体育の中で年間を通した体力

向上の取組を実践する。

- ・ はしの使い方の指導を中心とした食事マナーの取組を実践する。

5 学習指導、児童生徒指導、健康（体力・保健・食・安全）に関する取組

※ 様式2～4参照

6 特色ある学校づくり等に関する取組

- (1) 育てたい資質・能力
 - ・ 地域に関わる学習や様々な体験活動を通して積極的に人と関わり、地域や自他のよさに気付き、互いを認め尊重する心。
- (2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）
 - ① 人とかかわる活動を充実する。
 - ◇ア 縦割り班・異学年交流活動の充実（みどりタイム・みどりっ子集会・総合的な学習等）・グループ活動の積極的な導入
 - ◇イ 生活科や総合的な学習等を通じた地域とかかわる体験活動の充実
 - ◇ウ あいさつ運動の推進（PTAや地域協議会との連携）
 - ② 児童自らが健康・体力づくりに努める活動を充実する。
 - ◇ア 外遊びの励行、縄跳び等各種検定の活用や校内ドッジボール大会など各種校内大会の実施
 - ③ 日常の学習活動の充実を図り、児童に学ぶ楽しさを実感させ、意欲の向上を図る。
 - ◇ア 学び合い活動や課題解決的な学習の積極的な導入、言語活動の推進
 - イ 特別支援教育への理解を深め、児童の特性に配慮した指導の充実
 - ④ 家庭や地域との連携による教育を推進する。
 - ア 家庭学習の習慣化
 - ◇イ 各種ボランティア活動への協力依頼
 - ⑤ 特別支援教育の充実を図る。
 - ア 配慮を要する児童の理解と専門機関との連携・協力
 - イ かがやきルームの利用・充実

7 本市の重点施策・事業との関連

- (1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協働を含む」）
 - ① 基本的考え
 - 魅力ある学校づくり地域協議会組織の活性化を図り、学校課題を共有し改善のための理解と協力を得る。
 - ② 主な取組
 - ア 学校支援ボランティアの積極的な導入と充実
 - イ 開かれた学校づくりの推進（授業参観、オープンスクールの工夫改善、各種たよりやHPの充実）
 - ウ 地域教材、人材を活用した地域学習の充実
- (2) 小中一貫教育・地域学校園
 - ① 基本的考え
 - 地域学校園の小中学校教職員の相互理解を深め、地域学校園教育ビジョン実現に向け、効果的な取組を推進できるようにする。
 - ② 主な取組
 - ア 児童の主体的な活動や言語活動等を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。
 - イ 小中連携のあいさつ運動を実施し、あいさつの習慣化と規範意識の向上を図る。
 - ウ 乗り入れ授業や教科部会を通して、学習上の課題を共有し指導することで学力の向上を図る。
- (3) 不登校対策
 - ① 基本的考え
 - 不登校については、どの児童にも起こりうることとして捉え、すべての児童に対するきめ細やかな見取りが必要である。また、不登校の要因・背景が一層多様化・複雑化していることを踏まえ、その実態把握に当たっても、学校・家庭・地域及び関係機関が連携協力し、不登校児童の状態や支援の在り方について正しく見極めることが重要であると考え。
 - ② 主な取組
 - ア 不登校対策委員会を核として、不登校事案への適切かつ継続的な取組の推進と、民生児童委員や関係機関との協力体制の構築に努める。
 - イ 新たな不登校を生まないため、欠席状況共有シートの有効活用を図るとともに、Q-Uテストの結果やおはなしタイム等での見取りにより早期発見、早期対応に努める。